

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 4年 3月 25 日

公表: 令和 4年 3月 28日

事業所名 多機能型事業所ふわり

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		施設内での活動のほか、テラスや中庭を使用し活動を行っている。水遊び場もありタイルに色彩を用いて視覚支援が行なえるようにしている。	
	2 職員の配置数は適切である	○		利用者3名に対し保育士1名、指導員1名を配置しています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		色彩を用いて視覚的にわかるように環境整備を行っている。段差や階段などにはスロープ設置。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		活動終了後は清掃、消毒実施。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		支援計画更新時やモニタリング時、特変があったときに随時支援会議を開催し職員間で協議し共有している。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年度末に保護者向け評価表を配布して意見を頂き、課題が出た場合は改善に努めている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		評価及び改善内容を保護者や地域の方がいつでも閲覧できるように、ホームページに記載している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者による外部評価は行っていない。	外部評価ができるようにしていく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		弊社内部研修・外部研修への参加、豊川市地域自立支援協議会開催の研修への参加、今年度はオンラインでの研修参加を行った。	来年度は研修機会をもっと増やすようにしていきたい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		計画更新時や特変時など、必要時にアセスメントを行い、その状況や成長段階に応じて必要な支援や活動の検討している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		事業所で共通のアセスメント用紙を用いているが、標準化されたものにするよう、検討していく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		発達支援についてひとりひとりの個別の課題を抽出し療育支援・活動を行っている。家族支援については、家族の悩みの傾聴を行い、その都度話を聞き取り助言を行っている。地域支援については、関係機関(事業所・相談支援専門員など)と情報共有をしている。	コロナ感染予防の観点から今年度は保護者との面談機会が少なかった。来年度は面談機会を設けて行く。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		職員会議や計画更新時に職員間で共通理解をし、支援をしている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		支援会議時などに職員間で行っている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用者ひとりひとりの特性や興味に合わせ楽しく活動できるように心がけている。	
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別・集団それぞれのニーズや課題を抽出し、支援計画の作成をしている。		

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	支援開始前に打合せ等行なっているが、送迎職員もいるため、参加できない職員に対しては書面やメールにて行っている。	送迎があるため、職員全員揃っては難しい状況。書面やメールなどのツールを活用し、職員間でその日の支援内容や役割分担の確認をする。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	支援終了後に振り返り等行なっているが、送迎職員もいるため、参加できない職員に対しては書面やメールにて行っている。	送迎があるため、職員全員揃っては難しい状況。書面やメールなどのツールを活用し、職員間でその日の振り返りの確認をする。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	支援経過記録を作成している。そこからモニタリングなどの検証を行っている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	基本半年に1度のモニタリングを行っているが、特変があったときには随時行っている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	担当者会議には児童発達支援管理責任者が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	児童発達支援事業所共有会議や個別のケースで豊川市子育て支援課などと情報共有や連携を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	医療的ケア児等コーディネーターや病院ワーカー、相談支援専門員や行政等、必要時に情報共有を行い、連携した支援を行なうよう努めている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	医療的ケア児等コーディネーターを中心に、病院スタッフ、訪問医、訪問看護などと情報共有を行い、連携した支援を行なうよう努めている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	移行支援に該当する利用者なし。	今後、該当する利用者様がいる場合には、保育園や認定こども園、幼稚園などと情報共有・相互理解するよう努める。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		小学校・特別支援学校へ移行する利用者様がいたが、コロナ感染状況により、情報共有の場への参加はできなかった。今後状況によっては書面などで行なうようにしていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		来年度、愛知県療育支援事業のコーディネーターを招いて研修の開催を予定している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		コロナの状況を見て地域の子ども達と交流する場を設けていけるよう努める。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	児童発達支援事業所共有会議の参加や、個別のケースの参加を積極的に行っている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	連絡帳の他、今年度は電話が多かったが保護者と連絡を取り合い、課題などの共有理解に努めた。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○	母子通園の参加をしていただいたり、必要時には助言等行なっている。	母子参加型イベントの定期開催を行っていきたい。	

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に必ず面談し説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		計画作成時にはアセスメントを行い、出来上がった計画書は保護者とともに確認を行い、署名にて同意を頂いている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時に保護者と話す機会を設けている。	定期的な保護者会を行い、丁寧に話を聞く場を設けたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者同士が集まる保護者会の開催はしていない。今後開催の検討を行っている。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		申し入れがあった際、職員間で体制を整えるという努力をし、その結果を保護者へ伝えている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ふわり便りや連絡帳でのやり取りを行っている。	来年度からは、保護者や地域の方々に対し、ふわりでの活動の様子が分かるよう、SNSなどのツールを使用し発信していく予定。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		鍵付きの書庫に保管している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ひとりひとりにあったコミュニケーションツールを使用している。保護者へは連絡帳や大きく変わったことは電話にて情報伝達をしている。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		弊社のデイサービス事業所へ訪問し、高齢者の方と触れ合う機会を設けている。		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		災害時やコロナに対するBPCの作成を行い、保護者、職員が自由閲覧ができるようにしている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回の避難訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		年に1度のアセスメントで確認をしている。予防接種や服薬が増えた場合も随時確認をしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		年に1度のアセスメントで確認をしている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		今年度は、弊社第三者委員による職員全体に向けた虐待防止の研修を行った。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	現状身体拘束を必要とする利用者様が少ないため、該当なし。	身体拘束を必要とする利用者様がいる場合には保護者への説明を行い、同意を得たうえで支援計画に記載していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。